

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 現地及び第3委員会室 担当職員 三宅
日 時	平成24年4月16日(月曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午後 0 時 00 分
出席委員	菱田 福井 井上 馬場 藤本 湊 小島 西口		
出席理事者	山内政策推進室長、竹村政策推進課長、田中安全安心まちづくり課長 船越産業観光部長、竹内農林振興課長、堤国営事業推進課長、辻村農林振興課参事、谷口国 営事業推進課参事、塩野国営事業推進課副参事		
出席事務局	三宅		
傍聴者	市民 名	報道関係者 名	議員 名

## 会 議 の 概 要

10:00

開議（菱田委員長あいさつ）

### 1 小規模基盤整備事業について（五反田池現地視察）

<産業経済部長 あいさつ>

<国営事業推進課長 事業概要を資料に基づき説明>

10:25 帰着

<休憩15分間、第3委員会室に移動>

### 2 カーボンマイナスプロジェクト（クールベジタブル）について

[政策推進室、産業観光部入室]

<政策推進室長 あいさつ>

<安全安心まちづくり課長よりカーボンマイナスプロジェクトについて説明>  
(パワーポイント)

~ 11:30

<農林振興課長より農業者支援策について説明>

~ 11:35

<菱田委員長>

本日は説明のあった内容について質疑を行い、今後に向けた提案や意見等は改めて時間をとって議論していきたい。

[質疑]

<井上委員>

耕地における有害鳥獣対策は。

通常の野菜の販売価格と比較してクールベジタブルによるものの価格帯の差は、  
認証手続きとはどういうものか。

< 農林振興課長 >

防除柵等について、地元から要望を受ける中で補助する取り組みをしている。

< 産業観光部長 >

農地・水保全管理支払交付金事業を活用し有害鳥獣対策に取り組んでいる事例もある。

< 安全安心まちづくり課長 >

3年前、コープ神戸の販売実証実験では、2割高くても消費者は買うと結果が出ている。また2年前、モデルの市内小学校の保護者を対象に、野菜の価格についてアンケートをとった結果では、高ければ買わないが、同じ値段帯であればエコ野菜を買うというものであった。これらを踏まえ、動向をみながら1割増し程度で販売したいと考えている。

炭堆肥に他の化学肥料を多く入れると意味がなくなるものであるので、生産過程におけるトレーサビリティをしっかりとつけることを約束するものである。

< 井上委員 >

生産コストと味の比較は。

< 安全安心まちづくり課長 >

コストは炭堆肥代のみであり、行政がそこを補てんする。味は作物によって違うが最低限同じ味である。

< 馬場委員 >

スーパーマツモトのほか、アミティや地元商店への販売優先は。

さくら有機については家庭菜園への普及促進の考えは。

< 安全安心まちづくり課長 >

地元のできるだけ近いところに産品を置きたい。使用料等のコストが発生するが、企業等には趣旨を理解いただき、できるだけ低く抑えてもらいたいと考えている。

< 農林振興課参事 >

平成23年度から、さくら有機に炭を入れたものを個人販売している。今は実証実験の段階であるが、今後その経過を踏まえ拡大していきたい。

< 西口委員 >

消費者への広報のありかたについて、今後の展開は。

< 安全安心まちづくり課長 >

広報は大きなポイントであり、市の広報はもとより、カーボンマイナス、クールベジタブルが認知される取り組みが必要である。NPO法人による農園活動を立ち上げた。そこに参加いただく方による情報発信など、行政と住民が両輪となって、地に足をつけた取り組みを進めていく。

< 湊委員 >

特許はとっているのか。八木町で似たような取り組みがされているが。

< 安全安心まちづくり課長 >

特許については承知していないので調べてみる。クールベジタブルという登録商標を取得しており、取得後に農水省やヤクルトがよく似たネーミングが使われたが降ろしていただいた経過がある。八木町での取り組みについては承知していない。

[ 理事者退室 ]

~ 11 : 50

### 3 行政視察について

<事務局 視察行程及び視察内容について説明>

<全員了承>

### 4 その他

<菱田委員長>

5月の月例委員会については、行政視察があるので、これに変えることとしたい。

<全員了承>

~ 12 : 00